

第136号
ほほえみ
07 01 14

新年を迎えいかがお過ごしでしょうか。
今年は猪年です。諺に「猪も七代目には豚になる」とあります。これは、何事も長い年月のうちには変化をするという意味だそうです。
たとえ今、辛い思いをしていますが、明るい笑顔の日が必ずやってくる。信じて今年もがんばりましょう。
尤も、猪年は日本だけで世界的にはブタ年だそうです。干支の本場、中国ではブタは金運の象徴で、ブタ年生まれは金運に恵まれる。韓国でも出産ラッシュが予想されているそうです。

<第139回 ほほえみの会>

年末12月10日は岡田医師をはじめ3人の参加でした。

<第140回 ほほえみの会>

新しい方3人、岡田医師を含め8人が参加しました。

1歳半男の子、白血病。生後すぐに発症したが自然に治った。昨年末に風邪を引いたことから病院で検査して再び病気がわかる。市立病院に入院したが24時間の付き添いが大変でこども病院へ転院をお願いした。こども病院で検査したところ、心臓に問題があることも発覚した。今後は心臓の様子を見ながら治療をしていくことになる。母親は18歳で免許教習中、住んでいるところはバスが1時間に1本で、こども病院近くに住みたいと思っている。「コアラの家」に入ることは出来るだろうか。

2歳女の子、ヨークサック腫瘍。お腹に腫瘍が出来ている。年末に発熱、機嫌が悪く、歩けなくなり近くの小児科、総合病院で診てもらい、こども病院へ。入院して間がなくショックな状態が続いている。6歳の姉も病気があり、妹は元気で暮らしていたのでショックが大きい。



小学3年生、男の子、悪性リンパ腫。前日まで元気に学校に行っていた。せきが出たが、風邪ではなさそうなので近くの小児科で診て貰う。すぐに順天堂病院を紹介され、行くとそのまま救急車でこども病院へ。そのままおいたら手遅れだったと言われた。また、病名も聞いたことがなく、しばらくはショックで涙の日々だった。子供が「お母さん、希望を持ってね」と言う。子どもの方がしっかりしている。また、病棟で子供同士で励ましあっているのを見ることがうれしい。こども病院の医師はていねいで、子供にも一人の患者として説明をしっかりとしてくれる。本人も納得をして注射や薬に対応している。病院に任せられると思うと親が安心する。最初に医師から「病気の原因は分からない。病気がわかってよかった。これからは治すことを考えよう」と言われたが、3ヶ月たってようやくその意味が理解できるようになってきた。

5歳女の子、急性リンパ性白血病。10月に再発が分かり、2月に移植の予定でいたが、11月の治療中にけいれんが出て治療中止、今後の予定が立たなくなった。本人は元気だが体調に気をつけなければいけないので気を遣う。親の方が精神的に参ってしまう。「コアラの家」に入っているが、まもなく1ヶ月で出なければいけない。入居期間を長くしてほしい。コアラに入れないときはホテルも利用するが子供にはコアラにいたいと言っている。安心するようだ。また、「コアラの家」は寒い。せめて、コタツや電気毛布の持込を認めてほしい。電気容量が小さいので大きくしてほしい。二重の生活は経済的にも大変。

次回は 2月 11日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>